

## 「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 2011年10月13日

所属： 教育文化 学部／研究科 人間環境 課程 自然環境 選修 2年

氏名：佐藤 滯

派遣先大学名(国) ビクトリア大学 (カナダ)

在籍身分：短期留学

派遣期間：平成23年9月6日～9月30日

渡航年月日：平成23年9月4日

帰国年月日：平成23年10月2日

### ○派遣先大学における授業等の履修状況

ビクトリア大学 ( English Language Centre )

Program : September Monthly English

Dates : September 6 - 30, 2011

講義時間：週20時間

### ○研究・学習概要及び今後の勉強計画

カナダでは、教科書を使った英語の基本となる文法等を学ぶ講義と実践的な英語を使ったディスカッション、プレゼンテーションを行うことを中心とした講義の2つを受てきました。教科書を使う講義では品詞の違いであったり、過去形・進行形・未来形の活用の仕方など私たちが中学生の時にならった内容を改めて勉強して来ました。基本的な事だけでも忘れていたことも多く、実際のネイティブの先生の話聞いていて、この基礎を正しく理解することが英語の上達の第一歩であるんだと感じました。そしてこの習ったこと口に出して言えるようになることが大切だということがわかりました。そのためにもう一つの実践的な講義があり、私は習ったことを使って発言する努力をしました。初め私は他国の人たちに比べ先生の質問に答えることもできずただ黙って授業を聞いてしまっていました。しかしこのままではカナダに来た意味がないと思い、積極的に英語を使うようにしました。もともと、人前で発表等することは得意ではなかったので日本の講義だとなかなかできない形式の講義で本当に良かったと思いました。全般的に講義を振り返って日本の英語の授業に比べて枠にとらわれることなく生徒の考えを尊重した楽しい授業だったと思いました。特徴的だったのはロールプレイが非常に多く、また服や部屋のデザインをして発表するといった間接的に英語を学ぶ講義が多かったことです。この授業の形だと、ペアごとに練習する時間がたくさんあり、他国の人と英語でコミュニケーションをとらざるを得ないため自然に英語を話す機会が増えてい

たのだと思います。楽しみながら学ぶという事は大事だと実感しました。先生方もとても経験豊かで話が面白く生徒たちと一緒に授業を楽しんでいるように見えました。今回、カナダへ行き自分が普段専門として学んでいるのは地球の環境問題であったり、生物の生態系についてである事をみんなに伝えると、非常に関心を持ってもらえました。日本で生活しては分からなかったけれど、少し自分の学んでいることに誇りと自信を持ってました。せっかくみんなが興味を持っている知識を身につけているのだから世界の人達のために役立たせなければもったいないと感じました。この研修を機にもっと英語を上達させて、環境問題や公害問題で苦しんでいるような国でボランティアを試みたいと思いました。これからも様々なことに挑戦していきたいです。

### ○生活面について

ホームステイという形で一ヶ月間カナダの家庭でお世話になりました。家族はホストマザーとその子供たちが2人の計3人でした。子供たちは2人とも男の子ということもあって家の中はいつもにぎやかでした。私には男兄弟がいないため、弟が出来たような気持ちで一緒に遊んでいました。中でも紙飛行機・紙風船を作って遊んだのは男の子たちにも喜んでもらったようで良かったです。そしてカナダでも家の中で目にするのはやはりたくさん日本製品です。特に、パソコン、TVゲームといった電子機器や自動車は日本で目にする会社ばかりで驚きました。日本のものがこれほど世界で愛用されているということにとてもうれしく思いました。そして食事に関してですが、カナダの食事は日本人に合う味付けで、日本食が恋しくなるような事は特になかったです。大学のカフェテリアではカレーや寿司、中華料理などが食べることができ、日本の大学の学食と同じような雰囲気でした。みんな売店等であったランチを、天気の良い日は芝生の上にシートを敷いて食べている光景が、とても和やかで良かったです。また大人から子供までタンブラーや水筒を持ち歩くため、ペットボトルを持っている人は珍しいくらいでした。どのお店でも様々な種類のタンブラーが売っていて、私はみんながエコを意識しているんだと感じ、日本でももっと流行れば良いと思っています。私はバスで毎日大学と家を往復していたのですが、ビクトリアの信号の仕組みが日本では見かけたことのないタイプで、慣れるまでは道を渡るのも一苦労でした。押しボタン式に変わりはないのですが、自分で渡りたい方向を考えてボタンを押さなくてはなりません。とても面白いなと思いました。また交通に関して言うと自動車は昼間であってもライトをつけなくてはならないようで、交通安全のためには良いのかもしれませんが日本人としては眩しかったです。その他の生活に関して日本と違うと感じた所は、「時間」についての感覚の違いです。夕食の時間は17時くらいであるため大学から帰るとそのままテーブルに座って食事をとっていました。その後、子供たちは遊びに外に出ていくといった感じでどの家の子供も21時には自分の家に帰っていました。そして大人も子供も22時には寝るため家中の電気が消えてしまいます。私の感覚からすると、子供たちが夕食を

食べに家へ戻ったらそのまま家で家族と過ごすというのが普通だと思っていたため不思議な感じがしました。しかしこれはカナダは日本に比べ、日が昇るのが遅く沈む時間も遅いため生活する時間帯も違うということでした。このよう様々な習慣やルールの違いはカナダでしか体験できない生活であり、とても面白いと感じました。

### ○その他留学全般にわたる感想

今回のカナダ研修が私にとっての2回目の海外となりました。しかし一人で航空チケットをとり飛行機に乗るといったことは初めてだったため、不安はたくさんありました。しかし、秋田大学から一緒に行った4名の仲間もいて心強かったうえ、楽しい思い出もたくさん作ることが出来ました。英語以外に学んだことの1つに知らない場所に赴く場合には下調べが必要であるといったことがあります。ビクトリア大学で出会った多くの人が留学は初めてではなく、他の国や都市で、数か月間英語を勉強していました。その方たちの話を聞くと、時間があればパンフレットに載っているような観光スポットを訪れて、思い出をたくさんつくっているようでした。私もその影響を受け、長距離バスのチケットを買って一人旅のような事をしました。またある時には海をわたってバンクーバーの様子も知る事が出来ました。何をするのも言葉がうまく伝わるかどうかといった心配はありましたが、知っている単語を並べて文章を作り話してみると現地の人達は自分が思っていた以上に理解してくれました。ベンチに一人で座っていると現地の方は「気分でも悪いの?」と声をかけてくれ、日本から来た私に優しく手助けしてくれました。一か月間という短い間でしたが、この街の人の優しさと笑顔には毎日癒されていました。カナダの方はどの場面でも必ずあいさつの後に「How are you?」といったことを聞きます。スーパーの店員などの初めてあった人もです。この習慣は海外ではあたり前の事かもしれないですが、普段慣れていない私としてはとても気分が良いものでした。これを体験すると、日本人はコミュニケーションというものをとるのが下手だという事が、身にしみてわかりました。一方であいさつの重要さや、知らない人であっても声をかけてコミュニケーションをとることの大切さを実感しました。

ところで、私は一か月間に「私は日本から来ました。」というフレーズを何度言ったことでしょうか。その度に「日本」という国を称えてくれたり、興味があると言ってくれたりしました。そして今回起きた東北大震災の心配をしてくれました。またカナダの街中にあふれる日本製品を目にして、自分が日本人であることに誇りを持てたような気がします。今以上に英語を上達させて日本の魅力や素晴らしさを少しでも他国の人たちに伝えることが出来たらなと思いました。

(以下写真)



① 私たちが学んでいた教室



② 同じプログラムのメンバーと